

## 第 16 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和 8 年 1 月 6 日 (火)

開催時間 午後 2 時 00 分から午後 2 時 56 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 萩野 智夫  
教育長職務代理者 松坂 浩志  
教育長職務代理者 橋本 幸子  
委員員 梶浦 陽  
委員員 中村 己喜雄

出席職員	教 育 次 長	佐々木 邦彦	働き方改革推進監	久保寺 利仁
	教 育 監 長	秋山 克也	高 校 教 育 課	川 口 泰 才
	教 育 監 長	高見澤 圭一	主幹・指導主事	
	次 副 參 事 長	望月 勝一		
	総 務 課 長	矢崎 孝		
	教 育 企 画 室 長	岩出 修司	教 育 企 画 室	
	福 利 給 与 課 長	石原 武人	室 長 换 佐	内 藤 京
	学 校 施 設 課 長	一瀬 清久	主 幹	小 宮 山 隆
	義 務 教 育 課 長	長坂 嘉久	主 任	佐 藤 薫
	高 校 教 育 課 長	望月 俊孝		
	特別支援教育・児童生徒支援課	大久保 雅司	総 務 課	
	社 会 教 育 課 長	玄間 修	課 長 换 佐	藤 田 秀 文
	保 健 体 育 課 長	穴水 美奈子	主 査	小 池 涼 子
	全国高校総体推進室長	山本 晃司		
		平子 順一		

傍聴人 0 名

報道 0 名

会議要旨

### 〔 教育長開会宣言 〕

小澤委員から都合により会議を欠席する旨の届出があった旨、教育長から報告があった。

### 1 議案なし

### 2 報告事項

- (9) 第10回大村智自然科学賞受賞者について  
[説明] 高校教育課

### 【了知】

### 3 その他報告

- (11) 令和7年度中学校卒業予定者の第2次進路希望調査結果の概要について  
[説明] 教育企画室

松坂委員 1次調査と2次調査で希望する学科に変化が見られますが、今高校の魅力化に向けていろいろ取り組んでいると思いますが、学校の取組や先生の指導といった成果が関係しているのでしょうか。そのあたりの分析があれば今後の1つの指標になると思いますがいかがでしょうか。

石原室長

この調査につきましては、生徒たちがどのような理由で学校を希望したのかまでは調査しておりませんので、実際のところ分かりません。  
ただ例年、昨年度倍率が低かったところは翌年度は高くなり、反対に高かったところは低くなる傾向があるようです。

教育長

中学生の進学先検討の1つの資料としてこの調査結果を提供しているという部分があります。

松坂委員

最近高校の魅力化が言われていますが、各学校の魅力度がそのまま倍率に表れてくるのではないかと思っています。  
例えば総合学科や探究科は我々の時代にはありませんでしたが、これらの学科を目指す生徒のニーズがあって、学科の魅力を高めるために教育委員会や学校が実施している様々な取り組みが生徒のニーズとマッチしているのか、その成果を見る指標にもなるのではないかと思っています。

石原室長

委員がおっしゃるとおり学校の取り組みが具体的にどう反映され、それが結果としてどのように結びついたのかについては今後検証していくかなければいけないと感じておりますので、御意見を参考にさせていただいて、県の施策に反映できるように検討していきたいと思っております。

橋本委員

私立高校の希望率が高くなってきているようですが、公立高校の魅力化について生徒たちにどのようにアピールしていくのかが今後大事になってくるかと思います。この私立高校の希望者が増えたことについてはどのように考えているのでしょうか。

石原室長

私立高校の無償化との関係は分かりませんが、ここ数年私立高校の希望者が増えている傾向があります。国の方でもいろいろな動きがありますのでその辺りを注視しながら県としても対応策を考えていきたいと思っております。

橋本委員

分かりました。

相浦委員

高専の希望者はどこを受けるのでしょうか。また、人数は何人でしょうか。

石原室長

東京都のほか栃木県、石川県、長野県など合計17名となっております。

相浦委員

通信制高校を希望する生徒はどのような理由で希望しているのでしょうか。

石原室長

調査はしておりませんが、おそらく学びの多様性や昔に比べて通信制に行く心理的なハードルが低くなっているという状況があるのではないかと思っております。

教育長

この調査結果については本日報道発表されるということです。

### 【了知】

#### (12) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について 〔説明〕 保健体育課

中村委員

中学校は体力が全国平均を上回っていますが、小学校は下回ったということです、聞いた話によりますと、野球やバレー、ボーラーなどのスポーツ少年団に入団する子供達が減ってきてているようです。そのことが体力づくりに影響しているのかもしれないと思っています。また、スポーツ少年団に入つてもお金がないからボールが買えないとも聞いたことがあります、そういう場合、教育委員会の補助はあるのでしょうか。

山本課長

確かに、ここ最近は団員数が少なくなってきたという話がありますが、少子化により全体の母体数が減ってきていることが関係しているかと思われます。野球やサッカーなどの集団スポーツは、児童数の減少から小学校単位では難しいところは他の学校と合同チームを作るなど工夫しながら行っているようです。

スポーツ少年団はスポーツ協会の関係になりますので、教育委員会としては直接的な支援はできない状況です。

小学校の体力低下について、スポーツ少年団のような学校の体育の授業以外でスポーツに関わるような機会が減っているのではないかという点につきましては、教育委員会としても体育の授業で運動の楽しさを味わってもらいつつ、放課後にも運動ができる機会を増やしていきたいと考えております。

中 村 委 員

一人でも多くの子ども達にスポーツを楽しんでもらい、スポーツに親しんでもらうことはとても大事だと思います。その1つの形がスポーツ少年団であると思ひますので、もう少し知恵を出しながら、できたらスポーツ少年団と相乗効果があるような体育の方法などを考えていく必要があるのかなと思います。

山 本 課 長

ありがとうございます。地域の連携を考えながら取り組みを進めていきたいと思います。

橋 本 委 員

体力が課題ということですが、私が住んでいるところでは人口減少で学校の統廃合が進んでいます。子供達は家から学校まで、今まで歩いていた距離であってもスクールバスで通っています。スクールバスに乗る時間が決められているため、放課後に友達と楽しく遊ぶ時間も減ってきてているようです。そういう面で、今まで日般的に体力をつけることができていたものがなくなり、体力低下につながっているかもしれませんので、スクールバスの利用についても考える余地があるのではと思っています。  
もちろん学校でも運動が楽しいということを教えることはすごく大事なことだと思いますので、ぜひ有効な取り組みを考えていただければと思います。

山 本 課 長

保健体育課は学校安全も担っておりまして、子供の登下校上の安全面からスクールバス利用となっているかと思いますが、その点を加味しながらも、今使える時間の中で子供達に体力をつけるためにはどういう方法がベストなのか、常にいろいろな工夫や知恵を絞りながら考えていきたいと思っております。

橋 本 委 員

体力的に地域格差が生まれているような気もします。

山 本 課 長

今回の調査を県内の市町村別の分析にすることは正直難しいかと思います。例えば東京では電車で通ったりするので実はけっこう都会の方が歩いていたりします。委員がおっしゃるとおり、日常生活がそのまま体力向上につながる部分は多いかと思いますので、子供達が学校にいる間もどのような生活を送るのが良いのか、様々な意見を参考に取り組んでいきたいと思っております。

楫 浦 委 員

普通は小学校が体力が高くて中学校は低くなるような感じがありますが、反対の結果になっていて驚いています。ゲームやスクールバスなど様々な原因が考えられるのではないかと思いますが、最近では小学校の運動会が午前中に終わっているところも多いと聞いています。  
小学校の体力作りは学校だけでなく自然の中で出てくる部分も多いと思いますので、その点を考慮しながら対策を考えていただきたいと思います。  
でも山梨県は全体として体力は合格点の方ではないでしょうか。

教 育 長

保健体育課で分析をしていますが、小学校では全国に比べて運動時間が長く、また運動を好きな児童が多いです。小学校では体育を専門とする先生がいないため、中学校で体育専門の先生が授業を担当することで体力の向上が図られているのではないかと考えております。

楫 浦 委 員

地域ごとに分析したら違うデータが出てきて参考になるかもしれませんね。

教 育 長

コロナの影響で下がっていた体力が徐々に上がってきてているという状況でしょうか。

山 本 課 長

はい、現在は回復傾向にありますが、まだコロナ禍前までは回復に至っていない状況です。運動機会の多さが影響をしていたと思われます。

教 育 長

この件につきましてはよろしいでしょうか。ありがとうございました。

【 了 知 】

[ 教育長閉会宣言 ]

以 上